

## 自衛隊神奈川援護懇話会の第1空挺団降下訓練始め研修支援 「援護協力企業との関係を強化」

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長松田辰雄 1等海佐）は、1月8日（日）、自衛隊神奈川援護懇話会が主催した習志野駐屯地演習場における第1空挺団降下訓練始め研修を支援した。

同懇話会は、退職自衛官が県内各種企業に再就職することで、在隊間に培われた体力、指導力、協調性、責任感等を県内産業の発展に大いに活用することを目的に、県内各商工会議所をはじめ、現在、200社を超える企業等によって組織され、退職自衛官を積極的に受入れている。

当日は、同懇話会企業11社23名が参加し、寒風が吹き荒れるなか、各種航空機から空挺降下する隊員の厳しい訓練を目の当たりにすることで、自衛隊活動の実情や退職自衛官の就職援助に対する理解を更に深めた様子であった。神奈川地本は、「援護協力企業との連携をより強化するため、今後も継続的に部隊研修を支援していく」としている。

## 神奈川県自治体等就職推進連絡会同 「自治体との連絡・協力関係を強化」

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 1等海佐 松田辰雄）は、1月10日（火）、同地本において「平成28年度神奈川県自治体等就職推進連絡会同」を開催した。本会同は、今回が3回目開催であり、県内の自治体防災・危機管理職員等と防衛省自衛隊関係者との間で意見交換することにより、相互の連絡・協力関係の強化を図り、合わせて退職自衛官の自治体への就職の理解を深めることを目的とし、同地本が主催したものである。

現在、県内の各自治体には、退職自衛官24名（陸17名、海7名）が防災・危機管理職員等として採用されている。

当日は、退職自衛官11名を含む17名の自治体防災・危機管理職員等のほか、陸・海自援護機関、県隊区担任部隊及び同地本の隊員17名の参加を得て、災害時の県内における自衛隊の態勢や自治体の防災・危機管理上の取り組み等について意見交換を行った。

参加者からは、「自衛隊及び自治体の防災や危機管理に対する取り組みを知ることができて良かった」「退職自衛官をぜひ採用したい」などの声が聞かれた。

神奈川地本は、「県内自治体との連携の強化及び退職自衛官の自治体への雇用拡大のため、今後もこのような情報交換の場を設けていきたい」としている。



自治体及び自衛隊双方から活発な意見交換が行われた

## 護衛艦で活躍する女性自衛官に感動

神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 岡山1海尉）は、1月22日（日）、海上自衛隊横須賀基地において、厚木市玉川地区地域福祉推進委員会の部隊研修を支援した。

研修参加者は護衛艦「やまざり」に乗艦し、乗員の丁寧な説明に熱心に耳を傾け、艦艇の装備や自衛官の生活についての様々な話を聞くことができた。また、説明する乗員の中には女性自衛官もいて、参加者は女性自衛官ならではの苦労話に興味津々な様子で聞き入っていた。研修終了後、参加者からは「女性自衛官ってかっこいいですね」「女性自衛官の話が聞いて嬉しかった」などの声が聞かれるなど、非常に有意義な研修となった様子であった。



艦艇の装備について説明する「やまざり」水雷長（中川2等海尉）